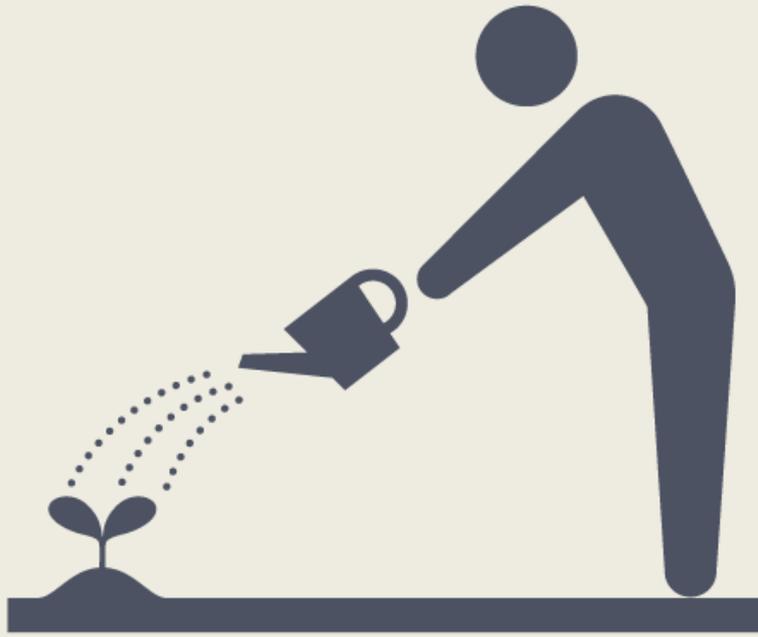


まぬけな社会にならないように、
いま私たちができること。



北上で未来志向型住民自治を学びあう集い2017

北上ひと育て・まち育て研究集会

テーマ「豊かな公共と中間支援組織ま－間から生まれる未来－」

2017年4月22日(土)

時間 10:30～17:30

開場 10:00

対象

ひと育て・まち育ての実践者

またはこれから志す方

定員

100名

会場

さくらホール小ホール

岩手県北上市さくら通り 2-1-1

参加費

無料（懇親会会費 2,500 円）

豊かな公共と中間支援組織ま－間から生まれる未来－

●イントロダクション 10:30～10:45

●トークセッション 10:45～16:45

テーマ1 10:45～12:15

基礎自治体と中間支援「基礎自治体における中間支援の役割」

(昼食休憩 12:15～13:30)

テーマ2 13:30～15:00

地域コミュニティと中間支援「地域コミュニティの中のコーディネーターの役割」

テーマ3 15:15～16:45

震災復興と中間支援「コーディネーターからチェンジメーカーへ」

●ふりかえりダイアログ 16:45～17:30

※プログラム・進行は予定です

主催 北上ひと育て・まち育て研究集会実行委員会

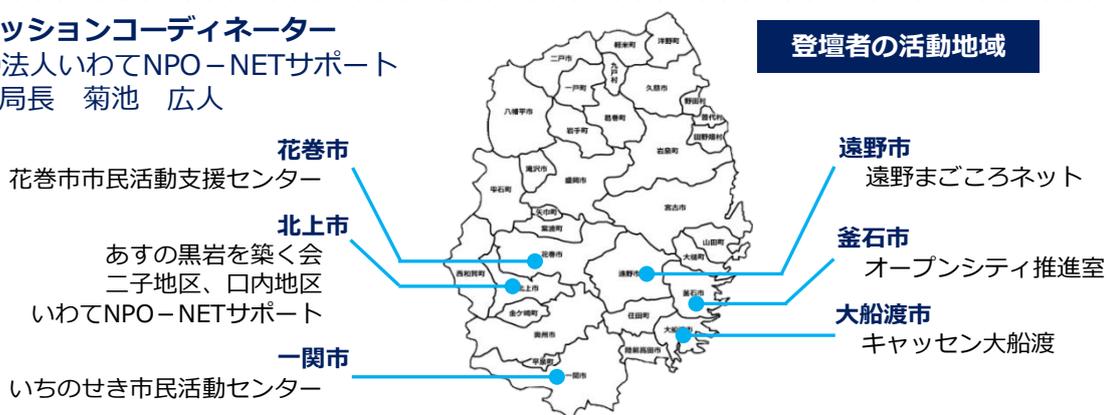
開催にあたり、「まぬけ」のはなし

世の中には、たくさんの「間」が存在します。例えば、行政と市民、地域と地域、公共と私、生産者と消費者、環境と経済、大人と子ども、現在と未来。埋めなければならない「間」と、ちょうど良い「間合い」が必要な「間」と、「間」にもいろいろあるようです。あらゆる地域課題をひも解くと、課題の真因には、「間」が関係していそうです。行政も企業も地域コミュニティも、直面している課題に共通しているのは、「間」の取り方なのかもしれません。

今回の集会では、豊かな公共の「間」をテーマに、「間」を埋める存在である中間支援機能を持った組織に注目し、「間」の意味と「間」をつなぐ価値を学びあいます。中間支援に関わる人が北上に集い、間抜けなまちにならないための知恵を共有することを目指します。

テーマセッション

- 各セッションコーディネーター
NPO法人いわてNPO-NETサポート
事務局長 菊池 広人



テーマ1 基礎自治体と中間支援 「基礎自治体における中間支援の役割」

岩手県内の地域づくりの特徴の1つが、基礎自治体単位での中間支援機能の充実です。市町村それぞれで、その土地の行政とNPOの状況にあわせた協働による市民活動・地域づくり支援を行っています。セッションでは、全国でもトップレベルの公設民営型市民活動センターであり、広域合併後の地域コミュニティの活動推進体制の構築で大きな実績をあげている、いちのせき市民活動センターの小野寺さん、まちのさまざまな場所で若者を巻き込み、まちへの参加のかたちをどんどん広げている花巻市市民活動支援センターの葛巻さんに、行政側の視点として、北上市の地域づくりを推進しているメンバーを加え、基礎自治体における中間支援組織の意味について深めあいます。

- ゲスト
小野寺 浩樹さん
(いちのせき市民活動センター/センター長)

いちのせき市民活動支援センター設立から10年以上にわたって、市民活動支援、若者のまちづくりへの参加促進、そして地域と行政のパートナーシップの推進を支えています。一関市では、平成26年に市民と行政が一緒に策定した「一関市地域協働推進計画」をもとに、各地域コミュニティにおいて、それぞれの意思とタイミングで、地域協働体が設立され、地域計画の策定、地域づくりのアクションを行っています。

- 葛巻 徹さん
(花巻市市民活動支援センター/理事長)

そもそもサラリーマンであった葛巻さんは、10年前に、「今の子ども達が大人になったときにどのような社会になるのか」を考える中、NPOへの参画を決意。その後、花巻の若者たちがまちに興味を持ち、活動につなげていくこと場の場づくり、下支えを行ってきました。東日本大震災後に、当時の仕事を退職し、(NPO)いわて連携復興センターの事務局長として、被災地の市民活動団体、支援団体の活動支援を実践してきました。現在は、日本ファンドレイジング協会東北チャプター共同代表も務めるなど、地域の中でチャレンジを生み、育てる活動を広げています。

※ゲストプロフィール文責:主催者

テーマ2 地域コミュニティと中間支援 「地域コミュニティの中のコーディネーターの役割」

地域コミュニティの中にもさまざまな組織・団体が存在します。しかし、活動規模が小さいために、専従の職員がいるわけでもなく、さまざまな工夫と負担のもとに地域づくりが実践されています。その中で、北上市では、2006年度から16地区の市立公民館が「交流センター」化。各地区の自治組織が指定管理者となり、地域づくりの拠点として、地域採用の専任スタッフのもと、活動が進められています。そしてその活動も10年が経過し、これまでの既存組織・団体の活動の支援の他に、新たに生まれる課題に向けた対応がより必要性を増しています。それぞれの地域が、その地域の歴史と資源を活かし、いかに地域の課題に向き合っているか、そしてこれからさらにどのようなアクションが必要かを深めあいます。

●ゲスト

小田島 光安さん

(NPO法人あすの黒岩を築く会/事務局長)

2006年の交流センター化に伴い、前職を辞し、地域のためにという想いで、黒岩地区交流センターの初代事務局長に就任。地域主体での公園づくり「お滝さん親水広場」の整備等、さまざまな地域づくり活動のサポートを進めてきました。そして地域内の農協跡地を地域で寄付を集めて購入し、地域の新しい核をつくる事業「黒岩まんなか広場」事業を推進し、2,000万円以上の資金を集め実現化しました。その後、まんなか広場の運営に特化したNPO「あすの黒岩を築く会」を設立し、現在はその事務局長をつとめています。あすの黒岩を築く会では、産直の運営、ワンデーシェフのコミュニティレストラン、高齢者サロン、薪の駅、地元工業高校との連携など、幅広い活動を行っています。

及川 正男さん

(前二子地区交流センター/センター長)

2006年の交流センター化と共に、二子地区交流センター事務長に就任。その後、2012年度からはセンター長として、二子地区の地域づくりを進めてきました。交流センターの立ち上げ当初から10年にわたって携わっている数少ない事務長さんのおひとりです。二子いもの産地として、マスコットキャラクター「いも丸くん」のデザイン、いも丸くんアイテムの企画・展開など、地域の資源を活かしたユニークな活動を進められています。また、ご自身も二子鬼剣舞や三橋漁親会など地域のさまざまな団体に積極的に関わりながら、地域全体の魅力の創出・継承・発信につとめられています。

菅野 健志さん

(前口内地区交流センター/事務長)

2009年に口内地区交流センターの地域づくり推進員として、活動をスタート。2015年からは口内地区交流センター事務長、口内町自治協議会事務局長として口内町の活動を支援してきました(当時、市内最年少交流センター事務長)。口内町では、伊達藩最北の地の文化を伝える浮牛城まつりの他、交通空白地有償運送やコミュニティストアの運営を行うNPO法人の立ち上げなど、地域の課題を解決するための特徴的な活動が生まれています。このような活動を支援しているほか、地域の若者達といっしょに新しいアクションを進めるなど、より多くの世代の参加をうながす取り組みも行っています。

※ゲストプロフィール文責:主催者



黒岩・お滝さん



二子・二子八景



口内・浮牛城まつり

テーマ3：震災復興と中間支援 「コーディネーターからチェンジメーカーへ」

2011年3月に発生した東日本大震災。この震災からの復興においては、行政、企業、NPOなど、過去に類を見ない、多様なセクターと多様な個人が参加しています。多様な背景をもつメンバーが集まり、協働による復興活動を進めるためには、それぞれを結び付け、生まれてしまう間を埋め、調整し、それぞれがより前向きに進むためのコーディネーターの力がとても重要です。

今回ご参加いただく3名のスピーカーは、まさに2011年からの岩手の復興を支え、多様な主体を巻き込み・つなぎ、いまの岩手のイノベティブな環境を構築したメンバーです。この3名の皆さんと、これまでの経験をもとに、これからの岩手のまちづくりに必要な機能を考えます。

●ゲスト

多田 一彦さん

(NPO法人遠野まごころネット/理事)

2011年3月の東日本大震災直後、岩手県沿岸南部地区の支援拠点となる遠野市で、多様なセクターによる協働型のボランティアセンターを設立、その後の復興に向けての活動を生みやすくするために、このボランティアセンターに携わるメンバーで遠野まごころネットを設立。このボランティアネットワークは、熊本地震や台風10号による岩手県被害でも大きな機能を果たしました。また、釜石市、大槌町での就労支援型地域拠点の設置では、コミュニティと産業がつながる新しい地域拠点モデルを構築しています。

石井 重成さん

(釜石市オープンシティ推進室/室長)

経営コンサルティング会社を経て、2012年に釜石市の職員に。復興支援員制度を活用した地域コーディネーター事業「釜援隊」の立ち上げや、オンデマンドバス導入による地域公共交通の最適化、成長企業のUIターン採用支援サービス開発など、クロステーマによる官民連携事業を推進しています。多くの若者たちが参加し、地域の課題をそれぞれのスタイルで解決する「釜石〇〇会議」をはじめ、多様なワーキンググループ運営や700名を超える市民との対話を通じて「釜石市オープンシティ戦略」を策定。釜石の地方創生戦略や事業立案のディレクターを務めています。

臂 徹さん

(株式会社キャッセン大船渡/取締役)

景観デザイン事務所や建設コンサルタント会社に勤務。東日本大震災発災後、国土交通省の業務で、岩手県大槌町入り。業務の傍ら、住民主体でまちのあり方を考える「おらが大槌夢広場」を立ち上げ、その後、コンサルタント会社を退職し、事務局長として専従。地元主体で運営できる状況になったため、おらが大槌夢広場を退職し、本業であるまちづくりのプランニングを手がける会社「株式会社Next Cabinet IWATE」を設立・起業。2015年8月、まちづくりや都市計画・建築の知見や経験を評価され、大船渡駅周辺地区官民連携まちづくり協議会のタウンマネージャーに就任。現在は、被災した大船渡駅周辺地区に市内外の市民、事業者がさまざまな関わり方をつくり、新しい価値を生んでいく取り組みを行っています。

※ゲストプロフィール文責:主催者

参加申込み方法

4月20日(木)までに、専用申込みフォームから参加登録をお願いします(<https://goo.gl/forms/ycWv5vHPhtC4gHBr1>)。

研究集会終了後、同じ会場で懇親会を開催します(会費:2,500円)。こちらもぜひご参加ください。懇親会の出欠は、専用申込みフォーム内で回答できます。

専用申込みフォームからの登録ができない方は、メールで、参加者氏名・所属・メールアドレス・懇親会の出欠をお知らせください。



主催 北上ひと育て・まち育て研究集会実行委員会
(お問い合わせ先hitomachi2016@gmail.com)